

## 第2回 明日香村デジタル交通サービス推進協議会 議事録

### 1. 会議議事

- 日時：令和5年3月13日～20日
- 場所：書面による開催

### 2. 議事録

#### (1) 実証実験実施計画（案）について

- ・ 全会一致で明日香村デジタル交通サービス実証実験実施計画（案）が承認された。

#### 実証実験実施計画の策定に向けたご意見

##### ■ 喜多会長（神戸大学名誉教授）

- ・ 特段気づいた点はなく、本内容で進めていただいて結構です。
- ・ ご参考までに、実施計画（案）p.12, 3.2(1)、“非運転者でも運行できる交通システム”という文言は“運転者なしでも…”としてはいかがでしょうか。

→（事務局）

ご意見を踏まえ、実証実験実施計画において修正致します。

##### ■ 中野委員（東京大学教授）

- ・ 車両は、早めに決めた方が準備はしやすい。

「主に観光客を対象とした移動支援サービスの実証実験のため、10名程度が乗車できる小型バスタイプの車両1台を用いて走行する。」とあるが、ARMAや、Easy mileのような車両であれば、最高速度は20km/hであるが、先進モビリティが提供するような既存のバスを改造したものであれば、一般車と変わらない走行が可能になる。また、自己位置同定も、車両によって決まるところがある。

→（事務局）

本実証実験では、現地の周辺交通環境への影響を考慮し40km/h等の周辺交通と同様の規制速度相当で走行可能な車両を用いることを想定しています。実証実験実施計画において、「4. 使用車両」に実験時の走行速度について追記すると共に、ご指摘を踏まえ、委託業務の契約締結後速やかに車両を確定するよう努めます。

- ・ 信号連携サービスについて、携帯回線網を使ったサービスと思われるが、SIP 第二期で提案されたV2N方式か（サーバーは東京に設置されたものを使う）、それとも、実証実験で認められ、よく利用されている携帯回線網を使った直接通信か。できれば、将来の商用利用を考えて、V2N方式を検討してほしい。

→（事務局）

ご指摘の観点から信号連携の方式に関する検討を行い、実証実験実施計画において、「4.3. 実証実験時の自動走行」について内容の充実を図ります。

- ・ 手動介入時のデータは、是非保存してほしい。実証実験は、単に実施するだけでなく、将来の技術開発や運用にフィードバックできる情報を得ることが求められる。

→（事務局）

実証実験実施計画において、「9.2.1. 走行安全性の検証（技術検証）」について、ご指摘の観点から内容の充実を図ります。

- ・ 住民とのコミュニケーションを取ることを計画しているのは、良いことだと思う。ぜひ、進めてほしい。

→（事務局）

実証実験実施計画（案）に記載のとおり、地域住民の方を対象とした試乗会を実施すると共に、実証実験の検証・評価においても試乗者の方の声を取り入れていきたいと思っております。

■ 木村委員（奈良交通株式会社交通戦略室 先進技術推進グループ長）

- ・ あくまで案の段階ですので問題はないと思っておりますが、今後、実施に向けての調整を深化させていくと、案のとおりできないことが明確になってくるかと思われまます。その際は柔軟に対応していく必要があるように感じます。今後ともよろしくお願いいたします。

→（事務局）

実証実験の実施に向け、関係機関、交通事業者や地元の方々等と十分な調整を図りながら進めていきたいと思っております。

■ 黒松オブザーバー（国土交通省近畿地方整備局奈良国道事務所 管理第二課長）

- ・ キトラ古墳壁画公開にあわせた走行実証実験期間中で観光客が多く来られる時期で、運行ルートの所要時間：1往復、14分〔P18〕と想定した場合、表1の運行ダイヤ（案）〔P21〕を1時間に1便のところを1時間に2便又は2時間に3便にするなど、乗車できる機会を増やし、多くの利用者の声を聞いてはどうか。

→（事務局）

「8.3. 運行時間帯」の運行ダイヤ（案）については、予算を考慮した上、現時点では、車両1台による往復、1時間に1便の運行を予定しております。

以上